

十二月十七日 日曜日

明日は二〇〇〇年最後の世田谷村 Meeting、二〇〇〇年は建築作品としては TREEHOUSE (G A J A P A N 号)、増井イカンパニーの二作であった。松崎 STREEM USEUM及び鈴木博之設計会所のコラボレーションは将来の布石となった。

最大の成果は早稲田・バウハウス佐賀春、夏のワークショップの実現であり、これは T O T O 出版より一冊の本としてまとめられた。S A G A 計画は建築計画、都市環境設計の専門分野にとどまらず、極めて総合的有機的プロジェクトであるが、アジアの環境問題および、近代化を主題とする研究所の設立、新大学院大学構想のプランニングは二〇〇一年に持ちこされた。

ひろしまハウスインカンボジア、世田谷村の二つの柱は建設が進行中である。十勝ヘレンケラー記念塔は建設中、年明けに現場チェック予定。

明日のミーティングでは再び世田谷村と大学の研究室との関係について述べる。又、将来への方法としてプロジェクト・オリエンテッド、つまりプロジェクト志向型研究室開設の方針と概略を述べ、

- 一、世田谷村計画 ゼロシエルトー計画
- 二、ひろしまプロジェクト

三、佐賀計画

四、MASUI・I計画

五、MATSUZAKI計画

六、TOKACHI計画

の進行方法に関して議論する。

長期のプロジェクトと短期の、いわゆる作品製作の仕事を組み合わせることをそれぞれのスタッフに要求する。

ただし、スタッフの力量から考えるに、世田谷、大久保共に小さなプロジェクトを確実にこなしてゆくことをベースにしながらはならないだろう。又、スタッフの国際化に関しては、現実を見据える時期である。実施設計は外国人に任せる事はできない。どのようにして彼等の能力を生かすかは冷徹にやらねばならない。日本人の小器用さは私のようなタイプには役立つのだ。考えてみれば、私はなんだか外人ボイところがあるからね。